

教育庁事業改善調書（平成18年度実施事業）

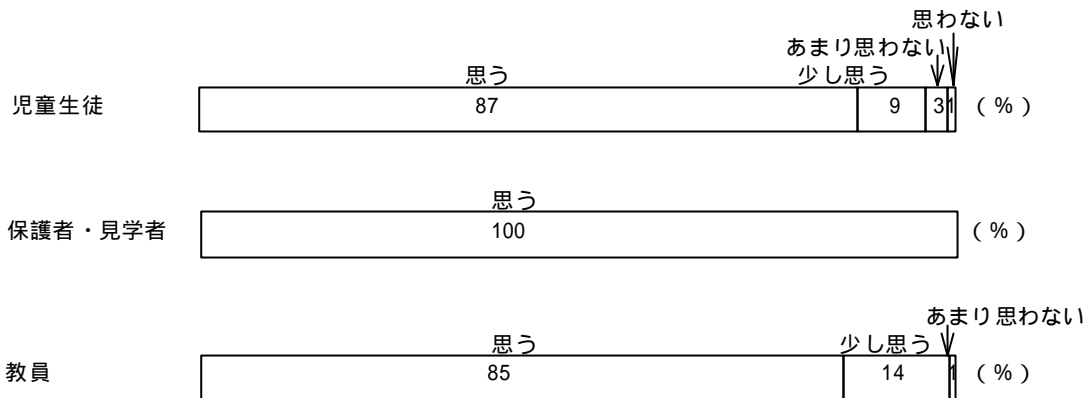
特別支援教育課（内線5281）

事業名	心と心のふれあいフェスティバル事業	事業開始年度	平成9年																																																									
事業の目的	盲学校、聾学校及び養護学校、小・中学校の特殊学級等に在籍する障害のある児童生徒の学習発表及び作品展を行い、学習活動への意欲を高めるとともに、障害のある子どもたちの教育について県民の理解と認識を深める。																																																											
事業の概要	<p>(1) 学習発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容 - 合奏、音楽劇、演劇、ダンス等、日頃の学習や練習の成果をステージ発表する。 期日・場所 - 平成18年12月8日（金） 県民文化センター大ホール 発表者 - 特殊教育諸学校、小・中学校（72校）に在籍する児童生徒（408名）及び教員（137名） <p>(2) 作品展</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容 - 国語、図工の学習等で制作した書道、絵画や作業学習で製作した作品3,816点を展示する。 期日・場所 - 平成18年12月7日（木）～11日（月） 県民文化センター県民ギャラリー 発表者 - 特殊教育諸学校、小・中学校（440校）に在籍する児童生徒 <p>学習発表会及び作品展の見学者総数 - 4,462名</p>																																																											
期待される効果	<p>盲・聾・養護学校の幼児児童生徒にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を発表することを通して、学習への意欲や自信が高まる。 様々な人とのふれあいを通して、円滑な人間関係が形成される。 <p>一般の県民にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもたちの教育について正しい理解と認識が深まる。 																																																											
アンケート調査結果	<p>調査対象</p> <table border="1"> <tr> <td>学習発表会または作品展に参加した児童生徒</td> <td>156名</td> </tr> <tr> <td>児童生徒の保護者、見学者</td> <td>209名</td> </tr> <tr> <td>児童生徒を引率・指導した教員</td> <td>100名</td> </tr> </table> <p>参加しての感想</p> <p>児童生徒：心と心のふれあいフェスティバルに参加して楽しかったですか。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>思う</td> <td>少し思う</td> <td>あまり思わない</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>92</td> <td>6</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3" style="text-align: right;">(%)</td> </tr> </table> <p>フェスティバルに向けての練習</p> <p>児童生徒：フェスティバルに向けて一生懸命に練習することができましたか。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>できた</td> <td>できなかった</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>97</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: right;">(%)</td> </tr> </table> <p>一般の方への理解啓発</p> <p>保護者・見学者：この事業は、特別な支援を必要とする児童生徒とその教育について、一般の方々に理解啓発が図られる場になっていると思いますか。</p> <p>教員：同上</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>思う</td> <td>少し思う</td> <td>あまり思わない</td> <td>思わない</td> </tr> <tr> <td>保護者・見学者</td> <td>59</td> <td>33</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" style="text-align: right;">(%)</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>思う</td> <td>少し思う</td> <td>あまり思わない</td> <td>思わない</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>55</td> <td>27</td> <td>15</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4" style="text-align: right;">(%)</td> </tr> </table>			学習発表会または作品展に参加した児童生徒	156名	児童生徒の保護者、見学者	209名	児童生徒を引率・指導した教員	100名		思う	少し思う	あまり思わない	児童生徒	92	6	2		(%)				できた	できなかった	児童生徒	97	9		(%)			思う	少し思う	あまり思わない	思わない	保護者・見学者	59	33	7			(%)					思う	少し思う	あまり思わない	思わない	教員	55	27	15	3		(%)			
学習発表会または作品展に参加した児童生徒	156名																																																											
児童生徒の保護者、見学者	209名																																																											
児童生徒を引率・指導した教員	100名																																																											
	思う	少し思う	あまり思わない																																																									
児童生徒	92	6	2																																																									
	(%)																																																											
	できた	できなかった																																																										
児童生徒	97	9																																																										
	(%)																																																											
	思う	少し思う	あまり思わない	思わない																																																								
保護者・見学者	59	33	7																																																									
	(%)																																																											
	思う	少し思う	あまり思わない	思わない																																																								
教員	55	27	15	3																																																								
	(%)																																																											

アンケート
調査結果

事業の継続

児童生徒 : 来年も心と心のふれあいフェスティバルに参加したいと思いますか。
 保護者・見学者 : 心と心のふれあいフェスティバルは、今後も続けた方がよいと思いますか。
 教員 : 同上



続けたほうが良い理由

・「発表により児童生徒の意欲・自信が喚起される」「児童生徒の自己実現が図られる」「保護者が子どもの成長を感じたり、親子共に喜びを感じる場となっている」等の意見が挙がっている。

調査結果の分析

- ・児童生徒の 98 %がフェスティバルに参加して楽しかったと思う、または、少し思うと回答し、96 %が一生涯懸命練習できた、または少しできたと答えている。
- ・学習発表会、作品展の参加数について、見学者・保護者はおおむね適切であると感じている。
- ・理解啓発については、92 %の保護者・見学者及び 82 %の教員が、特別な支援を必要とする児童生徒の教育について理解啓発が図られる場となっている、または少し思うと答えている。
- ・事業の継続については、「思う」「少し思う」を合わせて 99 %の教員及び 100 %の見学者・保護者が事業を続けた方がよいと答えている。
- ・多くの保護者・見学者、教員が、児童生徒の意欲や自信が喚起される等の教育的意義を感じている。

関連データ

特殊教育諸学校児童生徒数推移

	H 16	H 17	H 18
幼稚部	33名	36名	32名
小学部	1,020名	1,062名	1,098名
中学部	692名	698名	717名
高等部	1,142名	1,179名	1,191名
計	2,887名	2,975名	3,038名

小・中学校特殊学級数推移

	H 16	H 17	H 18
小学校	655学級	689学級	728学級
中学校	303学級	310学級	341学級
計	958学級	999学級	1,069学級

小・中学校特殊学級児童生徒数推移

	H 16	H 17	H 18
小学校	2,070名	2,241名	2,449名
中学校	989名	1,044名	1,166名
計	3,059名	3,285名	3,615名

今後の方向

参加した殆どの児童生徒、保護者・見学者、教員が事業の継続を望んでおり、今後も継続して実施する。理解啓発について「より多くの県民に見てもらいたい、知って欲しい」等、県民への周知を望む声があったため、今後は、ポスターやチラシの作成・配布をとおして学習発表会・作品展の見学を積極的に呼びかけるとともに、ラジオ、テレビ、ホームページ等を活用した広報活動に力を入れ、さらに理解啓発が促進されるよう努める。